

帰国報告(通堂)

**東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣 帰国報告**

最終報告提出日 2012年9月3日

通堂あゆみ
東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文学開発センター
平成24年度夏個人派遣：PD

研究課題名

学閥形成から見る植民地医療衛生人事状況
(現地公用語：학벌형성으로 보는 식민지의료위생인사상황)

派遣先

大韓民国ソウル特別市
ソウル大学校中央図書館、韓国国立中央図書館

派遣期間

2012年8月6日出発 8月31日帰国 総26日

主な研究成果

(1)研究計画

朝鮮半島唯一の大学であった京城帝大医学部卒業生の卒業後動向調査を中心に、朝鮮半島医界における「学閥」の持つ意義および機能を考察する。その際、京城帝大との比較のため朝鮮の医学専門学校、内地の帝国大学医学部・医科大学（医学専門学校）といった医学校卒業生の朝鮮進出状況を具体的に明らかにする。この研究目的遂行のため①道立医院（＝地方公立医院）人事異動状況調査②京城帝大での医学博士号取得者調査を行う。

①については、『朝鮮総督府官報』、『朝鮮総督府及所属官署職員録』を利用して基礎情報をDB化し、異動実態を明らかにする。

②については、京城帝国大学の事実上の後継校であるソウル大学校が所蔵する博士学位請求論文を実見し、タイトル・請求者の情報を収集する。

(2)達成された課題

①1910年～1942年の33年間分の道立医院(大韓帝国期に設置された慈恵医院を前身とする。1925年より朝鮮道立医院官制勅令第86号に基づき道立医院へ)について、院長・医官クラスから嘱託医にいたるまですべての人事異動状況をデータ化した。これは日本統治期のほぼ全期間にわたる道立医院人事を容易に把握できるデータであり、また地方における公立医療機関の拡充（出張所

帰国報告(通堂)

や分院の昇格、医院新設による病院数の増加および人員配置)の過程も一目瞭然である。

②ソウル大学校が所蔵する京城帝大医学部の博士論文総計 265 冊を実見し、必要な情報を収集した。京城帝大は朝鮮半島唯一の大学＝学位授与機関であり、博士論文についての情報は大学としての機能を考察する際の手がかりとすることができる。当初はすべて電子複写する予定であったが、2012 年 7 月の図書館規定改定により複写不可となったため、写真撮影は最低限にとどめ(撮影データの所持も不可)、それぞれの論文について手書きのメモを作成した。

(3) 今後の研究展望

以上の作業は京城帝大医学部の運営実態を解明するのみならず、朝鮮総督府の衛生行政の地方レベルでの実施を明らかにするための基礎的かつ必要不可欠なものである。これらデータを利用することで「帝国日本」がいかに衛生行政をおこなったかという植民地統治政策の問題を扱うと同時に、内地医学校にとって帝国日本の版図拡大(植民地の獲得)がいかなる意味をもつのかという医学教育史と植民地研究史の接続も可能となることが期待される。朝鮮のみならず内地医学校の卒業生動向をも視野に入れて研究を進め、まずは 2012 年 12 月に近現代東北アジア地域史研究会大会で口頭発表を行う予定である。

以上。

帰国報告(通堂)